

## 今日の黙想のてびき

週日聖書日課 出エジプト記 4：18～31  
2026年4月18日(土)

### ◆文脈

- エジプトで奴隷になっている神の民イスラエルを救うために、モーセが遣わされようとしています。
- モーセは、ファラオの乳児殺害から逃れてファラオの娘に拾われ、宮殿で育ちました。成長したある日、あるエジプト人が同胞のヘブライ人を打つのを見つけ、そのエジプト人を殺します。そのことを目撃されたことを知ったモーセはミデヤンに逃避します。そこで祭司エロトの娘ツィポラと結婚して、羊飼いとして生活をしていました。
- ある時、ホレブ山で神と出会い、エジプトで奴隷となっていたイスラエルの民を脱出させるために遣わされることになったのでした。

### ◆あらすじと説き明かし

- 今やモーセは羊飼いの杖ではなく、神の奇跡を行う杖を手になっています。神はご自分の民イスラエルを救うことをモーセにお委ねになりました。そして、出エジプト記には他にも、神の業をモーセや他の人間が担う場面がいくつもでてきます。神はモーセを出エジプトに用いられます。けれどもすべてを握っておられるのは神ご自身です。
- しゅうとエトロはモーセがエジプトに行くというので、「安心して行きなさい」と平安を祈ります。モーセの旅は神の平安のうちに始まります。
- 21～23節の「ファラオの長子を殺す」という宣告では長子（息子）が問題となっています。神の長子であるイスラエルを拘束し続けるなら神はファラオの長子を取り去られるのです。
- 24～26節でなぜ神がモーセを殺そうとしたのか、性急に答えを出さない方がいいように思えます。モーセも長子だったのでそのことが関係あるのかもしれない。あるいは、神がモーセの派遣を取りやめようとお考えになった何かがあったのかもしれない。
- ここでの妻のツィポラの行動も謎ですが、彼女のこの息子（彼も長子）の血を流した割礼によって、モーセは救われます。モーセが女性（助産婦、姉、母）に命を救われたこととのつながりを感じます。また、この後に起こる、羊の血による過ぎ越しの予見かもしれません。
- 神は、約束どおり雄弁なアロンを旅に合流させます。そしてイスラエルの民はこの二人を信じ、主なる神を礼拝します。
- 神がこのエジプト脱出の主人公です。人間に理解できるところもできないところも含めてすべて神のご計画のうちにあるのです。